



「水と聖霊によって新しく生まれる」

カトリック谷山教会 主任司祭 トマス頭島光

皆さん、主のご復活、おめでとうございます。イエスの死と復活は、私たちのキリスト信者の信仰の要です。この喜ばしい時を迎えるにあたり、一刻も早い、ウクライナ侵攻の即時停戦を求めます。具体的な支援活動も活発になり、祈りも多くの人の心に拡散してきました。まだまだ支援の声は広がっていくことでしょう。

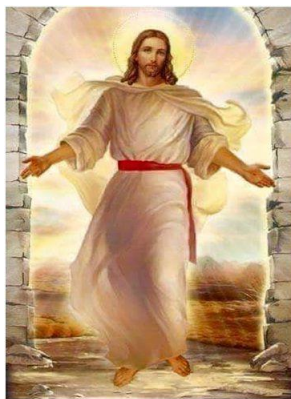
復活は、水と霊によって新たに生まれ直すことです。水と言えば、それは清めのための聖なる水の注ぎを意味し、霊と言うのは、聖霊の働きによって、新たな永遠の命の道へと、私たちをキリストの方向に導いて下さいます。私たちは、既に受けた洗礼の水によって罪から解放され、霊の導き、照らしによって、堅信の秘跡を受けました。こうして、永遠の命をいただいた今、再び、私たちは復活の主と共に新しく生まれるのです。

◆ウクライナの人々と共に

ところで、ウクライナの人々もほとんどがキリスト信者です。特に、ウクライナ東方教会はカトリック教会と合同を果たしたキリストの教会であり、ローマ教皇の主導権を認めています。ただミサ典礼だけは、ギリシャ正教会の流れを汲むビザンチン様式の典礼ですが、既にキエフ府主教区はローマ教皇の管轄下に属しています。ウクライナの民主は、その意味でも自由と友愛、民主の精神に満たされた気風を持っている民族なのです。第二次大戦後、旧ソ連による厳しい弾圧とロシア帝国の傘下にあった正教会からも激しい信仰弾圧にあったのが、このウクライナ教会でした。

◆水と霊による過越

私たちは皆、父と子と聖霊のみ名によって、水の注ぎを受け、キリスト信者となりました。この水は霊によって祝福された聖なる水であって、これによって力を得た私たちは霊に反する悪の力を拒否し、キリストの復活信仰を宣言するのです。こうして、私たちはイエスの福音に基づき、神のみことばを聞き、これに従う者として愛を実践するものとなって、生きていくのです。古い自己から新しい私へと変えられた私たちは、「過越の神秘(パスカ)」に預かったのです。意味は、洗礼がただ聖なる水を受け、罪から解放されただけでなく、父なる神の過ぎ越しの洗礼を受けたのであって、明らかにみことばによって霊の賜物を受け、新しい人として最初の一步を歩み始めたのです。



◆最後の晩餐の祈り

主の晩餐の夕べのミサは、聖木曜日の夕べに捧げられます。十字架にかけられる前の晩、イエスは弟子たちと共に最後の別れの食事をなさいます。それは、まさに「過ぎ越しの記念の食事」でした。いけにえにする小羊はありません。イエスご自身がいけにえの小羊だからです。新しい典礼でも、「世の罪を取り除く神の小羊、いつくしみをわたしたちに」と唱えます。イエスはパンと葡萄酒をもって、ご自身の肉と血に変えて捧げられたのです。ですから、私たちはこれを記念として、主の御体を食べ、御血を飲み、主の死と復活を想起するのです。パンと葡萄酒を使って晩餐をし、これを聖なるものに変えることで、旧約の「いけにえ」を終わらせたのです。

◆復活の恵み

新しい命を生きる、それが復活の意味でもあります。罪深い私は、キリストと共に十字架の上に死んで、新しい私が復活されたキリストと共に生きるのです。この過越の神秘によって、私たちも自己の外に歩み出て、ウクライナの人々と連帯して歩みましょう。教皇様は、その第三の回勅「兄弟の皆さん」で「超え出る」ことを勧めています。愛は各々の心の奥底からあふれ出て、互いの間に絆を作り出し、人を自己中から他者へと向け直させます。私たちは、この愛に生きるために、キリストの霊によって再度生まれ変わらせられたのです。自己の外に一步、歩み出す復活の力と恵みに満たされますように、祈りましょう。



主の死を思い復活を讃えよう

4月の教会歴より

4月16日 聖ベルナデッタ（記念日）

1844年～1879年

1844年1月7日、フランスのルルドという小さな村で生まれた。非常に貧しい家庭で育ったベルナデッタは、たまにしか学校に行けなかったの、読み書きもできない内気な少女だった。その上病弱で、死ぬまで喘息(ぜんそく)から逃れることはできなかった。

1858年2月11日、ベルナデッタが14歳のとき、妹と友だちの3人で、家の近くのガブ川の岸辺にたきぎを拾いに行った。すると、目の前の洞窟に不思議な光に包まれた聖母マリアが現れた。しかし、一緒にいた妹と友だちには何も見えなかった。この日から7月16日までの5カ月の間、聖母マリアはルルドの洞窟に18回現れ、「罪びとのために祈りなさい」と、ベルナデッタをじっと見つめながら言われ、彼女は絶え間なくロザリオの祈りを唱えていた。

ベルナデッタは、家の手伝いをしているときも、ヌヴェール愛徳修道会に入ってから、臨終の床で耐え難い苦しみの中にあるときも、いつもロザリオの祈りをささげていた。1879年4月16日、35歳の若さで亡くなり、修道院内の墓に埋葬された。死後30年、40年、46年と彼女の墓が開けられたが、遺体は全く腐敗しておらず、1933年12月8日、教皇ピオ11世によって列聖された。ベルナデッタの遺体は、今もヌヴェール愛徳修道会の聖堂に静かに安置されている。聖地ルルドは、年間400万を越す人びとが世界中から巡礼に訪れ、聖母マリアが現れた洞窟から湧き出る水によって、今も多くの奇跡が行われている。 -女子パウロ会聖人歴より-



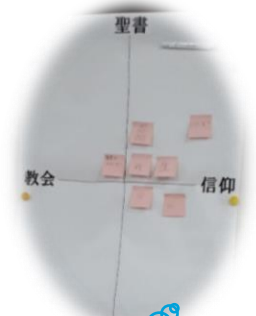
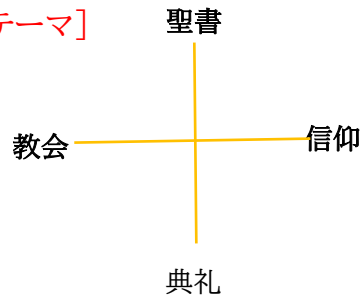
主の受難と死去の聖金曜日に行われる復活断食は、神聖なものである。それは、いずこにおいても守るべきものであり、また、適当であれば、聖土曜日にも続行すべきである。こうして高められ、開かれた心をもって、主の復活の喜びに至るためである。
-カトリック中央協議会-

谷山教会 四旬節 黙想会

3月19・20日の両日 2022年度の四旬節黙想会が開催されました。

今年は、例年の講師を招きお話を聞くという形ではなく、新しい試みでワークショップ形式の体験型で行われました。各人が与えられた課題に対して対話することで様々な意見や思いが出され、新しいイノベーションを生み出すことを期待し行われました。両日共、3つの班に分かれ意見の交換がなされ、参加された皆様は、「対話が出来て良かった」と口々に話されました。

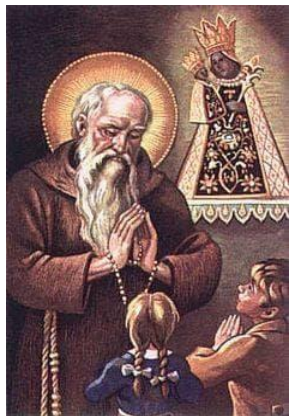
[テーマ]



心に浮かんだ言葉を紙に書いて、白板に貼ります。

4月20日 聖コンラド修道者(記念日)

1818年～1894年



コンラドは、南ドイツの一寒村の、信仰深い農民の子として生まれた。少年時代に両親を失い、33歳のときに聖フランシスコ会に入った。その後40年間、修道院の門番という自分の仕事を忠実に務め上げた。修道院を訪れる人に対しての心のこもった態度は彼の豊かな信仰生活からにじみ出るもので、人びとを幸せな気持ちにさせた。特に彼は貧しい子どもが大好きで、道で子どもたちに会えば、童心に返って語り合い、パンやお菓子を与え、祈りを教え、導いた。「祈らなければならぬ！」これがコンラドの口ぐせだった。彼は、貧しい人を救う者として親しまれた。 -女子パウロ会聖人歴より-



(上原敏子さん報告)

2022年4月<ミサ典礼>の朗読及び先唱奉仕のお願い

新年度が始まります。3月2日の灰の水曜日から四旬節が始まり、5週目に入ろうとしています。いよいよ今月16日はキリストの復活のときを迎えます。神様の方向に心を向け直しつつ、自己中の私から利他の私へと転回していく回心の恵みを祈りましょう。

ロシア軍によるウクライナ侵攻は人道危機の局面を迎え、多くの市民たちが各都心で孤立し、飢えと寒さに喘ぐ中、死の危険さえ間近に迫っています。既に多くの市民が空爆とミサイル攻撃により亡くなっています。一刻も早い、一時停戦と、食料等の支援物資が必要です。今、私たちもウクライナの人道危機を前に無関心ではられません。回心にふさわしい具体的な愛の行動を起こし、支援活動に協力し、平和を求めて祈りましょう。

4月は新しいのちの芽生えの時、復活の時です。コロナ感染対策のため、引き続き手指消毒、検温及びマスクの着用を心掛け、4月からは聖堂内人数を80人までに緩和し、ミサでは少しずつ歌を始めたいと思います。黙想の時も有意義に終わりましたが、復活の前まで「ゆるしの秘跡」は受けられます。受けたい方はお声かけ下さい。ミサ前後で告白を聴くことができます。

それでは、今月も愛の奉仕の心で、神に賛美と感謝を捧げ、引き続きの協力を願います。

◆受付での手指消毒及びマスク着用と検温、そして署名等のカード記入に協力願います。

◆三密回避として9時ミサの聖堂内への入場制限は、80人程度とします(*但し、典礼奉仕者を除く)

◆制限を超えても玄関ロビーから参加できます。なお、泣部屋は子ども連れ家族のみです。

◆聖堂内では座席番号の前に間違いのないようご着席ください!換気、加湿はこれまで通り続けています。

◆聖体拝領は、一列に並び、前後 1m程度、間隔を空けて前へゆっくりとお進みください。

■4月の典礼の先唱及び朗読の役割分担は以下の通りです。

◇ 4月3日 四旬節第5主日	午前9時ミサ～ライブ配信～先唱及び朗読奉仕	● 6/7 班
◇ 4月10日 主の受難(枝の主日)	午前9時ミサ～ライブ配信～先唱及び朗読奉仕	● 8/9 班
◇ 4月17日 復活の主日	午前9時ミサ～ライブ配信～先唱及び朗読奉仕	● 10 班
◇ 4月24日 復活節第2主日	午前9時ミサ～ライブ配信～先唱及び朗読奉仕	● 1 班

★さて、聖なる過ぎ越しの三日間は、聖木曜日から始まりますが、その夜、私たちは「主の晩餐の夕べのミサ」と言われているミサに参加します。そこではまさにイエス様が弟子たちの最後の食事をなさるのですが、それが「過越の食事」と呼ばれるものです。パンを裂き、ぶどう酒に入ったカリスを取って、主の御体を御血を記念してお渡しになりました。この聖なる命の賜物を受けて、新しく生きる力と復活の福音をのべ伝えましょう。

2022/4/1 主任司祭 トマス頭島 光

平和のための祈りの行進

2022年3月6日(日)14:30～ / 3月20日(日)15:00～

毎年、8月15日の終戦記念日に、平和のための祈りの行進は、宗派を問わず少人数で行われていた。(直泰江さん)

今年はロシアのウクライナ侵攻により、世界中が恐怖に苛まれる中、3月6日に変更され、参加者は、宗派を超え80人となった。



発起人の住職さんは「予想以上に沢山の方が参加して下さい、びっくりしている。平和を願ってそれぞれの祈り方で祈りながら行進して下さい」と話された。「ウクライナに平和を」、「戦争絶対反対」、「No War」、「ウクライナの国旗」等のプラカードを掲げ、照国神社、ザビエル教会、西本願寺鹿兒島別院など祈りながら行進した。3月20日は一般の方々も加わり、参加者は前回の2倍近くになった。谷山教会からの参加者は、8人ほど。平和の行進は、2週間に1回行われ、次回は4月3日の予定。



令和4年(2022年)谷山教会04月の予定と祝日表(04月01日～04月30日)

日 時		典礼と行事	朗読奉仕者	掃除当番	班会	
1日	金	19:00 初金ミサ *19:30～十字架の道行き	今月の行事当番班は5・11班です			
2日	土	19:00 四旬節第5主日のミサ			⑥⑦	教会
3日	日	6:30&9:00 四旬節第5主日		⑥⑦		
4日	月	6:30 朝ミサ				
5日	火	6:30 朝ミサ/11:00～聖香油ミサ/13:00～コンベンツス				
6日	水	19:00 召命ミサ				
7日	木	6:30 朝ミサ				
8日	金	6:30 朝ミサ *19:00～十字架の道行き				
9日	土	19:00 *蘇鉄の枝切り 9:00～ 受難の主日(枝の主日)のミサ			⑧⑨	教会
10日	日	9:00 受難の主日(枝の主日)/世界青年の日/聖週間始まる		⑧⑨		
11日	月	6:30 朝ミサ/受難の月曜日				
12日	火	6:30 朝ミサ/受難の火曜日				
13日	水	19:00 召命ミサ/受難の水曜日 <求道者勉強会シーズンV>15				
14日	木	19:00 主の晩餐のミサ/聖木曜日				
15日	金	19:00 十字架礼拝/聖金曜日(主の受難)/大斎・小斎/聖地のための献金				
16日	土	19:00 復活徹夜祭のミサ/聖土曜日		⑩	教会	
17日	日	祭日 10:00 復活祭 復活の主日	⑩			
18日	月	6:30 朝ミサ	 <p>言葉は 肉となって 私達のために 宿られた</p> <p>ヨハネによる福音書 1-14</p>			
19日	火	6:30 朝ミサ				
20日	水	19:00 召命ミサ				
21日	木	6:30 朝ミサ				
22日	金	6:30 朝ミサ				
23日	土	19:00 復活第2主日のミサ		①	教会	
24日	日	6:30&9:00 復活第2主日(神の慈しみの主日) ミサ後 司牧評議会	①			
25日	月	祝日 6:30 聖マルコ福音記者 朝ミサ				
26日	火	6:30 朝ミサ				
27日	水	19:00 召命ミサ <求道者勉強会シーズンV>16				
28日	木	6:30 朝ミサ				
29日	金	記念日 6:30 聖カタリナ(シエナ)おとめ教会博士 朝ミサ ▶ 昭和の日				
30日	土	19:00 復活第3主日のミサ		②③	教会	

ロザリオの祈り	毎週火曜日 10:00～	5, 12, 19, 26日
レジオ・マリエ	毎週水曜日 14:30～	6, 13, 20, 27日
聖書と教理－Ⅱ	毎週金曜日 10:00～12:00	1, 8, 15, 22, 29日

*4月10日(日)枝の主日 6:30の朝ミサは、ありません。

*レジオ・マリエは、3月初旬、インドネシア神学生支援のため献金。又ウクライナの危機支援の為カリタスジャパンへ少額ではありますが、送金致しました。毎週水曜日、ウクライナの平和の為、見捨てられた人々の為、微力ながらお祈りしています。

レジオマリエ会長・梅木千賀子